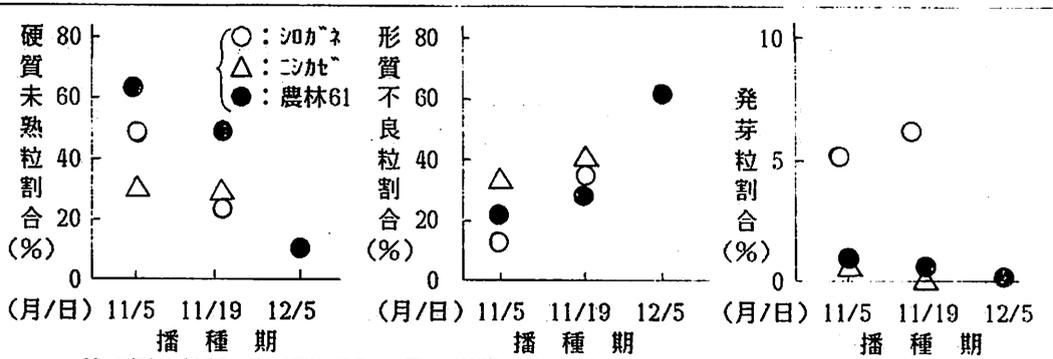
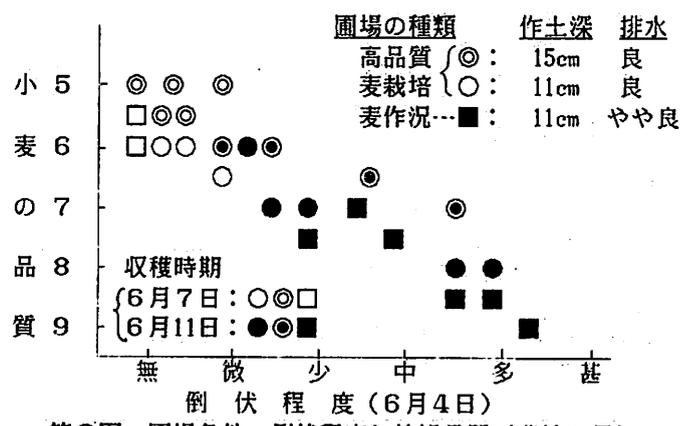


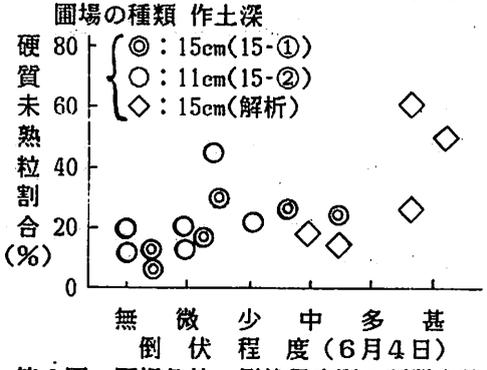
課題名	40 麦の作況試験 平成3年産小麦品質低下要因の栽培技術面からの解析		分類	②
試験研究年次	2年(完了)			
<p>I 目的</p> <p>3年産小麦は登熟中後期の長雨により外観品質が著しく低下した。ここでは、小麦の品質低下要因及び栽培法による改善方策を明らかにし、今後の技術対策の参考とする。</p>				
<p>II 試験方法</p> <p>小麦の外観品質の調査に供試した材料は、下記の試験課題及び試験条件のもので、品種、播種期、圃場の種類(排水性の良否、作土深や堆肥の有無等)及び施肥法等を異にしたものである。「小麦の作況調査」、「小麦奨励品種決定調査」、「高品質小麦の栽培法試験」。</p>				
<p>III 主要成果の概要</p> <p>3年産小麦の品質低下要因と栽培法による改善の方策を明らかにした。</p>				
<p>(1) 品質低下要因</p>				
<p>主な要因としては、登熟中～後期の連続的な風雨により、倒伏(草姿のみだれ)と日照不足により、硬質未熟粒や形質不良が多発したことがあげられる。なお、品種や栽培法及び収穫時期等によっては発芽粒、退色粒やくされ粒も低下要因となった。</p>				
<p>平成3年産小麦の品質低下に関与した子実形質とその発生要因</p>				
子実形質	主な気象要因	品種、栽培要因		
硬質未熟粒	" 中後期の降雨寡照	農林61号に多く、倒伏により助長。		
形質不良	登熟後期の寡照	全般的に発生。コシヒカリにやや多い。		
発芽粒	成熟期の降雨、高温	コシヒカリに多い。早播で多発。		
退色粒	"	同上。倒伏により助長。		
赤かび病	登熟期の降雨、寡照	品種に関係なく、倒伏多で発生。		
<p>(2) 栽培法による改善方策</p>				
<p>登熟期に強い風雨があっても倒伏させない小麦栽培が必要である。①品種、圃場条件(前作、堆肥の施用等)に応じた施肥基準(減肥)の励行。②排水性の向上と作土深の確保(根群域の拡大)。③暖冬が予想される年次では早播を避け適期播種。</p>				
<p>IV 成果の具体的数字</p>				
<p>第1図 小麦の登熟期間の気象</p>				



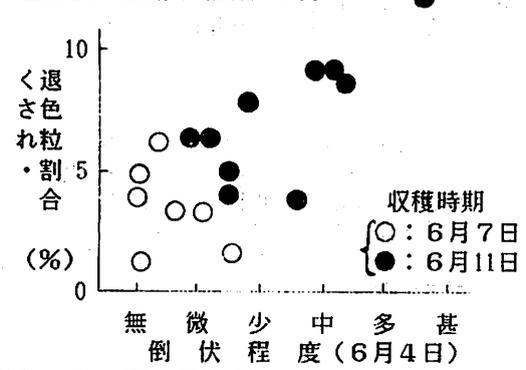
第2図 品種、播種時期別の子実形質(小麦奨励品種決定調査)
 注) 形質不良: 整粒に近いが、粒形が一部不完全なもの。



第3図 圃場条件、倒伏程度と外観品質(農林61号)



第4図 圃場条件、倒伏程度別の硬質未熟粒割合



第5図 収穫時期及び倒伏程度とくされ・退色粒割合(農林61号)
 注) 6月10日187mmの降雨あり

V	成果の評価と取扱上の留意点 小麦の品質低下防止のための栽培技術対策の参考とする。
VI	今後の研究上の問題点 小麦の登熟期の長雨に対して品質低下しにくい品種の選定とその栽培法
VII	資料名 2年度 福岡県農場総合試験場 農産研究所 麦作試験成績書